

Career Scope

# 高い志を掲げる生徒を育てるため 未来の働き方にまで視野を広げる

## — 高志高校(福井・県立) —

取材・文／永井ミカ

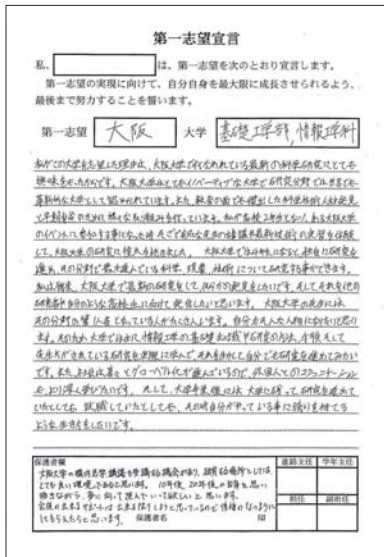


3学年担任・進路指導部  
西 繁寿先生

### School Data

創立1948年／普通科・理数科  
生徒984人(男子510人・女子474人)  
進路状況(2015年3月実績)大学312人、短大5人、  
専門学校0人、就職0人、その他58人

### ■ 第一志望宣言



保護者にもコメントをもらい、2年生の12月までに完成させる。この生徒は実際に講義を受けるなどして志望校を決定。志望理由を「大阪大学で行われている最新の科学研究にとっても興味をもったこと。同大学が世界でも革新的な大学としても認められていること。教育の面でも傑出した科学技術人材発見と早期育成のための取り組みを行っていること」とし、「大学卒業後には、大学に残って研究を進めたいとしても、就職していたとしても、その時自分がやっていることに誇りを持ってやる生き方をしたい」と文を結んでいる。

2015年度より、中高一貫校として再スタートを切った福井県立高志高校。元より県内トップクラスの進学校で、長年のSSH指定に加え、SGH指定も受けることとなり、生徒全員がそのいずれかに所属する。

**1年秋の文理選択に向けて  
早期から進路学習を開始**

高い志を掲げ、その実現のために努力する。こういった生徒を育てるためには早からキャリア教育でモチベーションを上げることが欠かせないと、1年生早々から適性検査、職業研究、学問調べ、学部学科研究などに時間を割いている同校。夏休みには職業インタビューや、卒業生による講演、親子学習会なども実施する。

「生徒には常にメッセージを発信しています。入学後いちばん最初の進路だのように進路の計画書を書いて秋の文理選択を意識させるほか、『進路を考える』ということとは生き方を考えること」という進路指

導のコンセプトを周知させています」と3学年担任の西繁寿先生は言う。

**様々な社会人を手本に  
将来像をグループで語り合う**

「一方で、未来の働き方が大きく変わるなど、我々教員には対応が難しい進路指導の課題も増えてきました」と西先生。特に同校ではSGH採択にあたって、「国際」という分野をどう生徒に意識づけていくかが課題だった。そこで、15年度より1年生の6月に生徒全員に配布したのが「Career Scope」。大きな組織の中で活躍したりグローバルに活躍する社会人などに焦点を当てて紹介している冊子である。

同校では特に、「国際」「科学・医療」「文化」などの各分野が10年後にどう変わっているのかを予想している「未来図鑑」のページと、商社や国連、メーカー、情報などの分野で、海外とつながりながら働く人を具体的に紹介したページに注目。

生徒たちは15分×3回のクールでそれらのページを中心に読み込み、付属のワークシートへ記入する。その後、グループで読んだ内容について話し合った。「グループワークにする」と視野が広がると同時に、他の人に迷惑をかけられないからときちんと読んできます」と西先生。「しかし、ここではまだ将来の目標を決めなくてもよいので、クラスで発表まではさせません。発表となると宣言になってしまったため、迷いは話しづらくなり、それがデメリットになってしまいうことも。個人的に書くグループで話し合う、クラスで発表するケースバイケースでどれを採用するかには気を配っています」

これらの学習を積み重ねて、2年生の12月には一人ひとりが「第一志望宣言」を完成させる。例年行っているものだが、15年度は生徒の視点が偏差値寄りではなく自分の気持ちに寄りかかったものに変わってきたという実感があつたそうだ。「どうしてもやりたい研究があるので〇〇大学」と書いていたり、まだ絞り切れないという心の葛藤が書いてあるなど、一人ひとりが本当にいい内容でした」と西先生。特に志望の「根拠」がしっかり書けている生徒が増えたそう。

「難関校志望が多いので、何度も『もう無理』という危機に陥ります」と西先生。そこを乗り越える力をつけ、自分は世の中の厳しさにチャレンジできる人間だと思わせることが、先生方の目指す進路指導だそう。